

■壁装高級化への処方 今は微量だが需要は必ず増える

美術工芸品級壁紙販促と取扱い時の注意点・施工方法

施工業界のリーダー達に聞く

業界の壁装高級化の声に応え本紙は 4 月号で発売元各社の「お薦めの美術工芸品級壁紙」を特集した。では、その高級化を推進するには何をどうすべきか、今回は「壁装高級化への処方」について、需要の最先端で働く施工団体協役員、東京・文化協会幹部、壁装研究会施工会員等々の施工界の各位に聞いてみた。結果を要約すれば別表のとおりである。需要は現状は微量だが必ずある。要は、美術工芸品級壁紙の素晴らしさを知ってもらうための努力と、それを適確に施工できる能力を発揮することという。

壁紙の出荷量は平成 22 年度は約 6 億・程だが、その 98%は塩ビ、プラスチック系壁紙で占められており、紙系が 0・7%、繊維系は 0・3%に過ぎない。

美術工芸品級で推奨された壁紙は、織物、和紙等が多く、合成樹脂系でも壁画調や色柄の美しいものが推奨されているが、いずれにしても、壁紙の統計上は 0・0 何%か、ともかく極めて少ないことは分る。

しかし、装飾性に趣向をもつお客、素材美にこだわりをもつお客などは決して少なくないといわれている。

インターネットで高級な装飾柄の壁紙を購入し、部屋の一部に両面テープで貼って満足している若い人もいたり、自分の部屋を満足できる装飾でつくりたいと欲求する人は、探せば多いのではと想像されている。

しかし、量産特価品に慣れ、顧客は値段の安さで選ぶものと思い込んでいる施工者は、張替えの注文があると、特価品の見本帳だけを持って訪問し、顧客に言われてようやく総合見本帳を提出するケースも多い。

お客様に各種壁紙の特長を丁寧に説明し、ご意向を良く聞き、親身になってご相談に応じる打ち合わせの中で、高級な壁紙が気に入り指定される例は少なくないという。

それには、施工者自身が壁紙を良く知り、関連する事項を周知するなどの勉強が欠かせない。施工者の高い知識と接客の丁寧さ、そして技術力の高さが壁装高級化の大切な基盤であることが浮かび上がった。

注意)本書を無断で転載することを禁じます。

壁装高級化への処方……壁装施工店に聞く

質問項目		回答の要旨
1	美術工芸品級壁紙の需要の考察	①需要の現況は大変少ない、統計上は 0.0 何％ ②美術工芸品級壁紙を求める人はいる ③お客が自慢できる壁紙を選択してもらうことが大切
2	受注の努力と心掛けるべき問題	①決めるのはお客様、見本のピンからキリまで見てもらい説明する ②壁紙それぞれの良さ、特長等を説明し、お客の気持ちになってお話しする ③お部屋に合う壁紙をお薦めし、お客の話を良く聞き、お客が自慢できる部屋づくりをお薦めする ④施工方法や手順を書き、必要な手間、材料等を挙げて説明すれば、値段は提示どおりに認められる ⑤高級品趣向の顧客には十分注意して意向を確認することが大切
3	織物系壁紙の施工の注意点	①織の美しさを活かした部屋造りが基本 ②織物に限らず壁紙は必ず 1 つ 1 つの材料を見て調べ、試験張りしてみて対策をたてる。また、顧客には、ジョイントの仕上がり具合が分るよう見本張りを提出して了承を得ておく ③裁ったら糊止めする ④壁紙によっては差し目地をお薦めする ⑤表に糊を回さない ⑥撫で付けは当て紙をし、撫で刷毛で撫で付ける。 ⑦防火仕上げてない場合は、下張り工法で、総ベタ、袋張り、清張りで張るのが適している。永年の間に起こる変色を防ぐには袋張りが効果的である。
4	絹織物壁紙の施工の注意点	①絹織物は難しい、手あか(指先の脂)などがついた状態で触ればダメになる ②糊付けで廻りの糊を切る加減も大切 ③表面に水を付けてもダメ ④撫で付けには障子紙の落としなどを当て紙して行う、撫で刷毛も極力柔らかいものを用いる
5	手漉き和紙の施工の注意点	①割り込みが一番大切、技術も大切だが、先ずは、割付けのセンスが部屋の品格をきめる ②張り出しは窓等光りの側から張る、上下は下から張り上げる、重ねは約 1 cm ③表面に糊、水、汚れを付けない、撫で付けは当て紙して行う
6	天然木壁紙の施工の注意点	①下地の平滑化丁寧に ②畳むと折れ筋がつく ③出隅、入隅の処理で折りしわを出さない
7	壁画・写真プリント等壁紙 装飾柄壁紙の施工の注意点	①下地のチェックが大切 ②絵の納まりをきめる ③柄ものは柄の割り振り、頭決めが大事 ④天井の場合照明器具のくる位置を確かめる